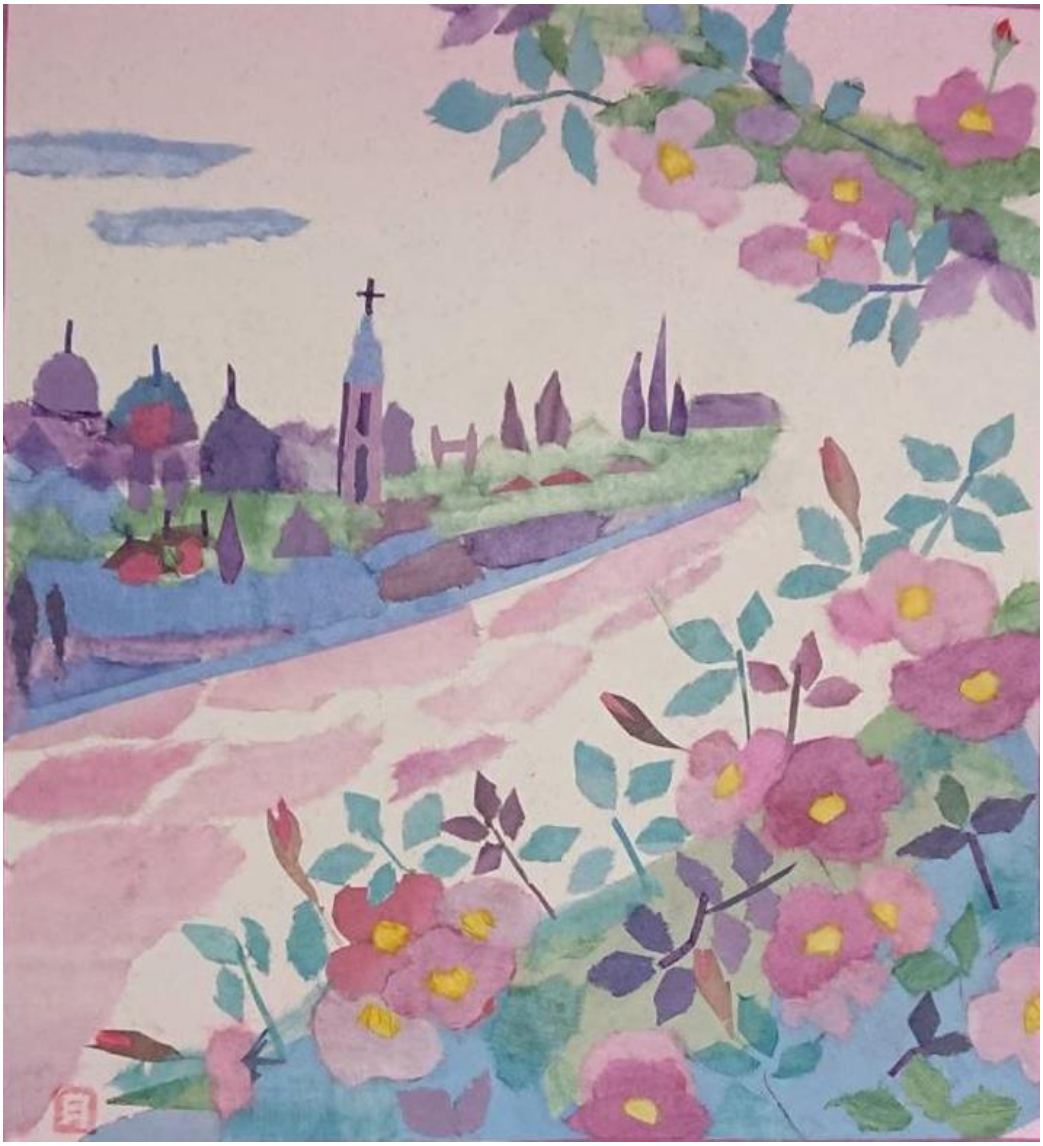
黒田重雄 「誕生日花＿作品 1」 F6（水彩）

作者コメント

6月に続き誕生日祝いの花の作品です。花に添えたテディベアで構図に変化をつけました。
花瓶に敷いたレースはテーブルの色が透けて見えるようマスキングインクを使って描いてあります。

喜田コメント

絵の隅々まで配慮が行き届いた作品です。花瓶を少し右にずらして変化をつけ、テディーベアを右に配置して全体の構図的調和をとったこともその一つです。主題の「誕生日花」の茎や花弁も緻密に正確に観察して描き、気持ちが良く出ています。この手の構図で一番難しい、水が入ったガラスの花瓶に挿した茎の表現は、さすがに良くできています。ガラスの厚みも硬さも冷たさも表現できています。黒田さんは沢山の作品を毎日描いているので、着実に実力をつけてきました。ちょっと書斎の壁に掛けたいような作品です。



月川りき江 「夢の町　花のある風景」 18cmx20cm（ちぎり絵）

作者コメント

20年以上前、NHK の趣味の時間に放映されたものですが、たまたまその本を手に入れました。
原画は水彩画と和紙の取り合わせですが、私はすべてちぎり絵で制作しました。

喜田コメント

月川さんらしい、おとぎの国のような淡くて夢を見ているような作品です。
タイトル「夢の町　花のある風景」にピッタリの作品になりましたね。一番の特徴は「淡い色彩」になるでしょう。私は見ているうちに、こんな町に住んでみたいという気持ちになりました。
この作品には原画があるようですが、そこに月川さんのオリジナリティーを追加するともっと良いと思います。町に月川さん独特の子供を描いてもいいかもしれませんね。そして例えば、
①全体に左下がりの構図なので何か右下がりの要素を入れる。例えば、川に浮かぶ「ゴンドラ」のシルエット、夕空を家路に急ぐ雁の群れ、などで。
②中心になる夢の町（十字の尖塔がある教会・ドームの屋根・赤い民家・糸杉の大木・森や林・他）を、色彩、逆光による光と影などによって、もう少し存在感を高める。強める。
③空と川の境界を描く必要はない（描かないほうが良い）が、空と川の色調を少し変えて（例えば空は桃色・オレンジ、川は黄色・ブルー・グレーなどで）境目はグラデーションで表現する。
色々申しましたが、これはこれでよろしいと思います。

竹前義博 「夏の終わり」 F6（水彩）

作者コメント

毎日のウォーキングの道です。8月も終わりに近づき、樹々の緑も変わってきました。空は入道雲から筋雲に変わって来ました。虫の鳴き声もきこえてきます。これからは紅葉が楽しみです。微妙な季節の変化を表現するのは難しい。

喜田コメント

竹前さんの須坂シリーズの第 4 弾です。季節の移ろいにつれて時々刻々と表情を変える「緑と空」を描いて来ましたね。
今回はタイトルの「夏の終わり」を①1 本の土道 ②生い茂る木々 ③青い空で表現しました。
一つづつ見ていきましょう。
①遠くへ延びる 1 本の土道、カラカラに乾いた土道、それでも夏の労働の痕跡が残る轍の跡が感じられる。中央が盛り上がり両端が低くなっている感じを良く出しています。OK です。
②緑の木々や森・林、今までの中で今回が最高だと思います。どこにも同じ緑はなく、沢山の緑を上手に使い分けています。灌木・雑草・路傍に咲く赤い花・立木の見える林・鬱蒼と茂る森・塊としての形が良い、空との境界の形の面白さ、本当にうまいものだと感心しました。
③夏の積乱雲から秋のうろこ雲への移行を感じさせる糸雲。あえてルールを破って空の下を濃く、上空を淡くして、樹々との境界の面白さを強調した表現。良いと思いました。
自然を描いたものとしてはこれでよいのですが、絵画としては、手前に荷車を曳く農夫の後姿を描ければもっと絵画的になると思います。作品にちょっと異質なものを加えて面白さと変化を加え、作品の深みを出す手法です。魅力が倍増します。

武智康子 「一輪の紫陽花」 F4（水彩）

作者コメント

クラブだより秋号に一言書いた、一輪の紫陽花です。5 月に開き、夏中、凛として咲き続け、その姿は暑さに弱い私に[暑さに負けずに、頑張れ]と言ってくれているように思えました。
色が少し薄くなりましたが今も凛として咲いています。この花を母の日に贈ってくれたお嫁さん達に感謝の心を込めて描きました。

喜田コメント

夏の間、武智さんを見守ってくれた、今も咲いている、強い一輪の紫陽花を描いたのですね。
花も茎も複雑な葉っぱも、とても良く観察して描けています。立派です。特に茎と葉っぱは与えた水を吸い上げて生き生きとしています。 触ったら、強い感触が伝わってくるような描き方です。
紫陽花の葉っぱの特徴である葉脈・葉端のギザギザ、葉裏の白っぽさ、明暗、など実によく描けていると思います。 いつも迷われる背景も無難に処理しました。問題ありません。
一番感心したことはこれが、切り花でなくて根付きの紫陽花だということを植木鉢（高級なものでなく黒ゴムの鉢）できちんと表現したことです。
修正点は特にありませんが、強いて言えば「あじさいの花」の部分がもう少し柔らかくて軽い感じが出ればさらに良かったと思います。

筒井隆一 「秋海棠(しゅうかいどう)」 F6（水彩）

作者コメント

夏の終わりから秋にかけて咲く秋海棠。我家の裏庭、家内手作りの紅花を、サマーミストにあしらいました。

喜田コメント

卓上に飾られた「秋海棠の花瓶」。筒井さんの作品は今まで硬くて、真面目な作品で面白さに欠けるという印象がありましたが、最近の作品は本当に面白くなってきました。
この作品の最大の長所（良い点）は構図です。秋海棠、紅花、サマーミストの構図が面白い、特に左に１枚突き出した大きな葉っぱ、すごく良いと思います。私にはどれが何の花か、どの葉っぱかわかりませんが、全体として花のバランス、葉っぱのバランスがユニークで魅力的です。
色彩も明暗もその表現が立派です。7 月作品のミニトマトの葉っぱと同じくらい良いです。
改善するとすれば以下の３点くらいです。①入ったガラスの花瓶（コップ）をもう少ししっかり描くこと。②円形の白い敷物の模様をいつもの筒井流でもう少し面白く描くこと。③机の先と手前の色調を今より少し強く差をつけること。

岡田理子 「国立大学通りの百合」 F3（水彩）

作者コメント

今の不安定な心情が表われているのかもしれません。バックに赤を使いたくなりました。

喜田コメント

背景のプルーシァンとレッドが調子よく滲んで作品を魅力的にしました。この作品を観ると背景の大切さ、背景が作品に与える影響の大きさがよくわかります。
岡田さんは最近、永山裕子の作品に強い影響を受けていると思います。良いことです。先月の「ひまわり」と同じように、9 月度の作品も大変強く、面白い作品になりました。
国立市のメインストリートである「大学通り」に白いユリの花が咲いているのでしょう。 その花を見て、岡田さんはその記憶と印象をこのような作品に仕上げました。素晴らしい才能です。
　4 つのユリの花がコロナに苦しむ人々の姿を現しています。下方を向いて身もだえしているようです。 プルーシャンとレッドの混ざり合ったにじみが、暗黒の地獄への道を暗示しているようです。 しかし、画面左の薄緑の草原に我々を導く一筋の道が見えます。 一筋の希望を見出したような救われた気持になります。 この作品はすでに写実の域を超えて、半抽象に踏み込んでいます。これはこれでよいと思いますが、ユリの花をもう少しだけ丁寧に描くと、一層魅力的な作品になると思います。

遠矢慶子 「ユリと枯れ柘榴」 F6（パステル）

作者コメント

ユリだけでは、色けがないので、ベランダのテーブルの上にある篭の中から枯れ柘榴を取ってきて入れました。毎回、バックで悩みます。

喜田コメント

遠矢さんらしい優しくて可愛い作品です。パステル画を描いて久しくなりますが、パステルは遠矢さんに合っているのではないでしょうか？　この作品には遠矢さんの個性が良い意味で沢山表現されています。まず、淡いパステルの色彩のバランスが良いと思います。背景もきれいですが、ユリの花や茎や葉っぱの間や隙間も工夫して丁寧に背景色を入れたいですね。
構図は黒田さんがそうであったように、花瓶を中央から少し左に寄せて、枯れ柘榴を花瓶の右において構図の調子を整えました。とても良いと思います。
この作品の主人公は「ユリ」です。可憐な白ユリではありますが、もっともっと「ユリ」に主張させてあげてください。陶器の花瓶と柘榴に負けない強さで主役の「ユリ」を描いて下さい。 特にユリの茎、葉っぱ、花に時間をかけてしっかりと描いてください。

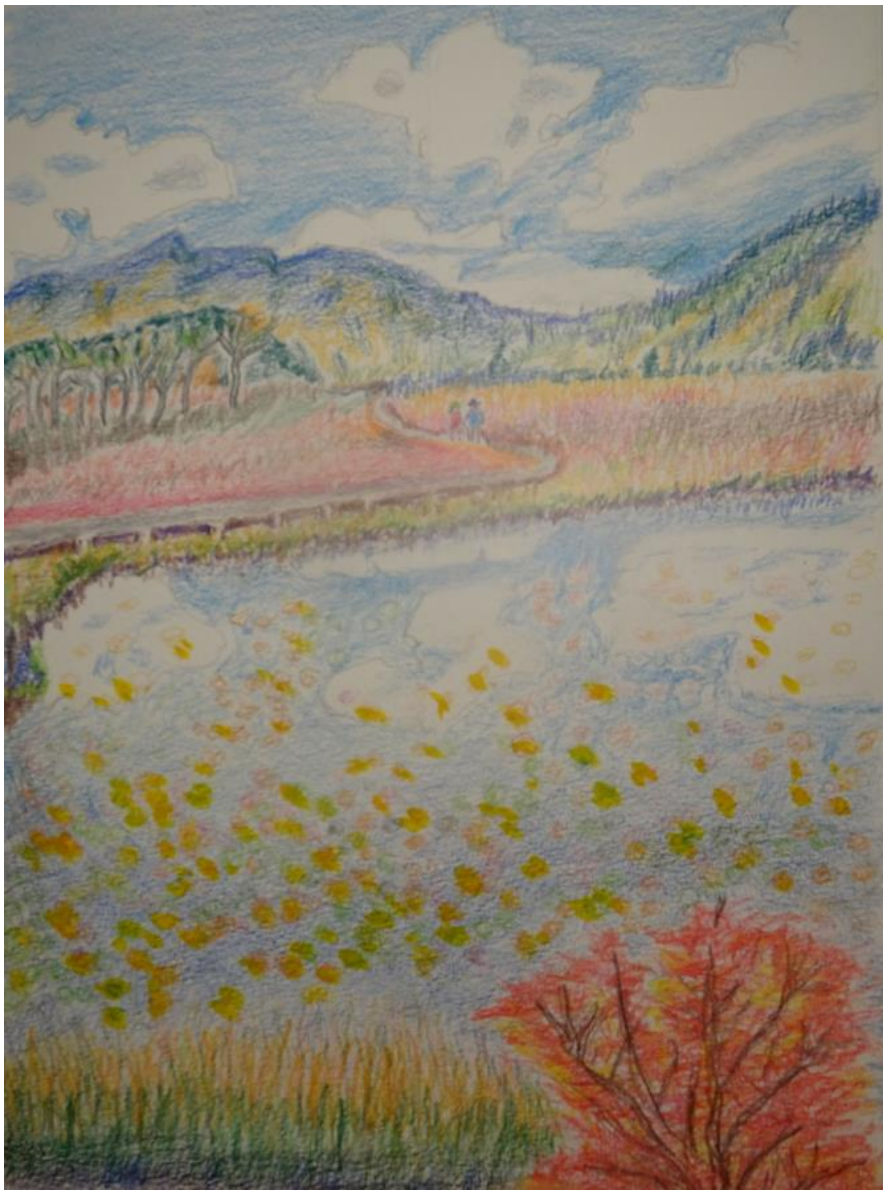
若林哲史 「都筑ニュータウンの夕暮れ」 F4（水彩）

作者コメント

夏長雨の切れ間、久々に見る夕焼け。見慣れた日常風景だが、暮色にチャレンジしてみました。
偶々眺めた淡い夕焼け、変哲ない街並みを題材にしました。構図的には、夕焼け空を広く取り、単調な町並みは眺望足下と遠景に分け、間は街路樹でごまかしました。また描きやすく、且つ形の良い部品を写真から拝借して適当に配置しました。

喜田コメント

住んでいる横浜のマンションの窓から見た大都会の夕暮れですね。 初秋を迎える都会の夕暮れを観る者に伝える上手な絵だと思います。大都会の喧騒の外にある大都会の人々の生活感（営み）を伝えています。さわやかな秋の夕暮れの空気感も十分あります。
構図的に素晴らしいのは空、遠景、中景、近景と明確に意識して４区分されたことだと思います。更に横方向に切られた構図を右のアパートの縦ラインで調子を整えたことも良かったです。
この絵で一番「上手いなあ」と感じたのは、夕空と境界をなす遠い街並みの表現です。茜色に染まった夕空と境界をなすあたりには逆光のために色彩はなく、形だけで遠景がしっかり描かれています。 高い塔があり、ビルがあり、高圧電線の鉄塔があり、民家の屋根が連なります。上手です。
この絵の課題は、
①空と街並みをセンターで切ったこと。夕焼けの空を描きたかったか、街並みを描きたかったかと問われます。私なら地平線をもう少し上げて、夕暮れの都会の生活感を描いたと言います。
②画面右側の最近景にアパートを入れた事の是非です。この作品には縦の線が欲しいという構図上の欲求があります。アパートが良かったか？ ほかに何かあったか？



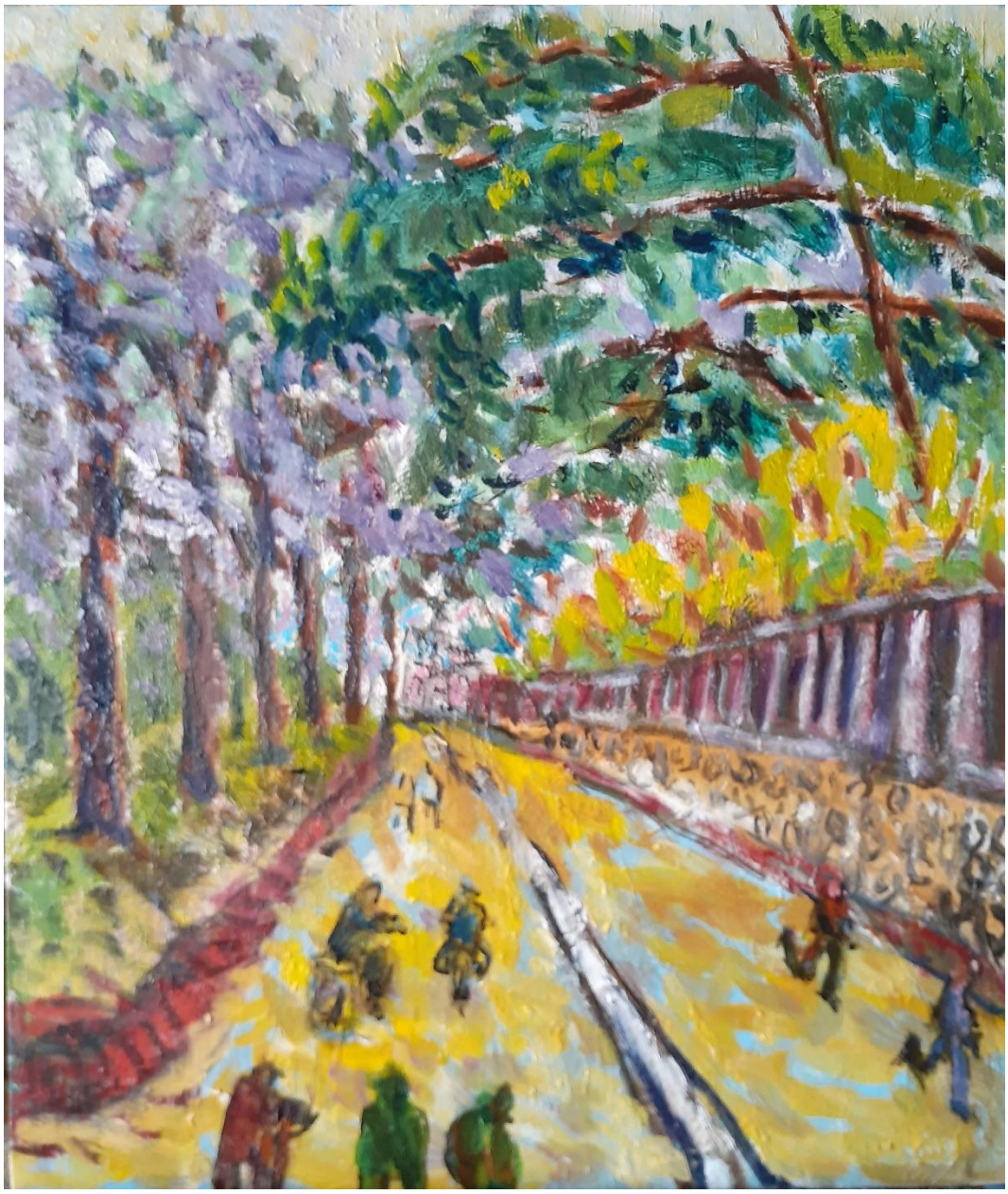
井上清彦 「草紅葉の尾瀬」 F4（色鉛筆）

作者コメント

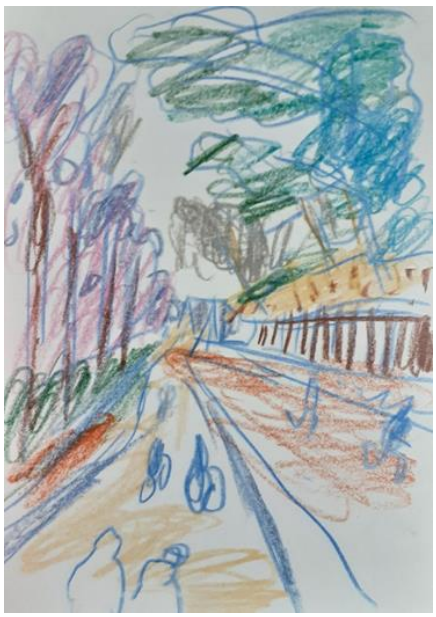
近所で気に入っったモチーフが見つからず、3年前の9月にハイキング仲間と歩いた尾瀬をえらびました。。広々とした風景画を描きたかったのでちょうど良かったです。
背景上手く言ったと思っていますが、前面の池に苦労しました。
浮かぶ葉が難しかったです。右手前のヤマウルシと、左の山の手前に白樺林を加えました。

喜田コメント

超多忙の井上さんの作品。描き始めてからの制作の密度はきっと濃厚だったと思います。色鉛筆でしっかりとした作品を仕上げてくれました。思い出の尾瀬の 1 枚の写真をベースにして構図を決め、イマジネーションを膨らませて写真以外のものも追加して、作品に仕上げました。
作者コメントにも描かれていますが、遠景の空と雲と紅葉が始まった山がとてもきれいです。
中景が主題の「草紅葉」ですが、湿原の花々が枯れて赤く染まっていく草紅葉の赤の色調を抑えた表現はよかったと思います。沼の岸をあえて斜めに描き、木道の曲線と面白いハーモニーを作り出しました。近景に置いた真っ赤なヤマウルシの木、これが良かったですね。これによって絵がアートになりました。ヤマウルシの赤がこの作品に息吹を与えました。改善点は池の水面と近景をもう少し濃く描くことです。遠景と同じ強さでなく、思い切って水面と近景を強く！！



喜田祐三 「私の住む町―競馬場通りー」 F10（油彩）



スケッチ　はがき大(色鉛筆)

作者コメント

いつものように、「私の住む町」シリースの第 5 作です。
わが家の近くに東京競馬場があります。競馬場の前は大木の楓が植えられた美しい通りです。「競馬場通り」といいます。
競馬のない週日は、この通りには人通りがなくなって、いつも森閑としています。最高の散歩道になります。
しかし、競馬が行われる週末には競馬ファンが押し寄せて、人流が急増します。 コロナの今は入場制限をしているので競馬開催日でも人流はそれほど多くはありません。
日課の散歩は夏場は涼しくなる午後 5 時から、暑さが去った今は午前中と決めています。 私は散歩の度に「はがき大のスケッチブック」に色鉛筆で簡単なスケッチをします。帰宅してから印象が冷めないうちに油絵に展開するのです。